

私の憧がれだった北アルプス温泉 ～雪倉岳～ 86' 3.21～23

メンバー：角田国彦 佐藤正春 (記佐藤正春)
3月21日(晴) 梅池～蓮華温泉

白馬大池駅より、梅池高原までタクシーの相乗りにて入る。朝食後、ゴンドラにて一気に梅林まで登る。リフトを一回乗り、ゲレンデを滑るが、ガチガチのアイスバーンで苦労して林道に滑り下りた。林道に7シールを着け7出発。林道を歩き、成城大ヒッテにて小休止。ここから天狗原へまっすぐ登る事になった。急斜面をキックターンをくり返しながら天狗原の祠の所にて食糧を食べた後、ここから乗鞍岳まで空身にて、ツボ足で登る。今日はヘルスキーパーは飛んでなく乗鞍の斜面は荒ざわつはない。リリーフのある所まで登り滑降する。角田氏はこんな良い雪質は初めてだと喜んでいた。ほんの少し腐った臭味だが、楽しい新雪滑降で天狗原まで滑り下りた。天狗原より振子沢に滑り、最初はクラストした斜面だったが、途中より新雪に変わった。

本当に軽い粉雪で、先行パーティのシップルでたっぷり荒ざわつはいるが、出来る限りシップルの無い所を滑る。多いに新雪滑降を楽しんで林道に出て橋を渡るとすぐ蓮華岳であった。ロッヂに入り荷物の整理をした後に、私の憧がれだった山のいで湯の温泉に入る。露天風呂で雪が降っているのでダイビングをする様な形で飛び込んだ。

夜になり、目が痛くなり出して、雪盲になつた事を知り、シマツヤラレタという感じがした。明日の雪倉岳が心配になつた。タイム 林道(1650m) 9:15/9.30～成城小屋 10/15/10.30～天狗原 11:45/12.30～乗鞍山頂 13:30/13.50～天狗原 14:00/14.10～蓮華温泉 15.30

3月22日(快晴後雲) 蓮華温泉～雪倉岳

今日もやはり雪盲の為に目が痛く、朝食の時など涙ボロボロ流しながら食べる。外に出るとピカ天下雲一つない。今日の快晴を私は敵にまわしてしまった。とりあえず兵馬の平まで滑り下りる。

兵馬の平にツボ足で登り滝見尾根上で小休止する。

角田氏が雪倉岳周辺を詳しく説明してくれたが、私にはほとんど見えない。瀬戸川に滑り込み、ツボ足ではもう1つしまのアシルを着ける。雪倉の滝の左岸斜面を登るが、とにかく暑く、雪首の滌と汗でゴーグルがすぐ曇ってしまう。

急斜面をキックターンをやりながら登り雪倉の滝上で休む。

角田氏よりここから雪倉岳山頂まで標高差が1000m位あると聞かされア然としてしまう。見えない目で地図を良く見ると確かに1000m位はある。一ヵ所、急斜面がありキックターンでは緊張させられた。2200m近くからクラストした斜面になり、シル登行ではすり落ちそうになり恐い。何とかエッヂを立つまかしながら2300m位まで登るがついに無理。アイゼンを着けたいが安定した場所が無く、キックステップで2400m位まで登る。後から登った角田氏が、私が、登ったキックステップでは、もう2~3回けり上まないと安心出来ないとホヤいていた。革靴とプラ靴の違いである。

時計を見ると14時を過ぎていて、もう下山しなければ下山をするとビバークになりかねないが、今度いつ登れるかわからない私の為にキックステップをくれた。GOのサインが出た。雪首も完全に直り安心して登れる。ここから山上はアイゼン歩行で登る。滑降して来るパーティを横目に見ながらひたすら登る。最後の200m程の登りはきつかった。

私にとっては汗と涙の雪倉岳山頂であった。コンロを出して大休止をする。二人共、急いで滑降しても仕方なく開き直った感じだ。16.10分に雪倉岳を後に標高差1300mの滑降開始だ。私の為に北回り尾根コースを廻らん下へいた。

クラストした斜面は、エッヂが良く利いてパラレルターンでは普通に滑る。右へ右へと滑り、雪倉の滝上の大斜面に出る。ウイドクラストした急斜面で1つも滑降などしたら下牛に転ぶと雪倉の滝上まで落ちて行きそうだ。斜滑降キックターンで慎重に下り雪倉の滝上に出了登ったルートと合流する。瀬戸川に滑降する。小休止後、滝見尾根上にツボ足で登る。時間とのたたかいである。急いで兵馬の平に滑り下りる。かろうじ1セーフという感じで兵馬の平に1暗くなつた。シールを着けヘッドライトをつけて登り返す。

尾根を廻り上りオ蓮華温泉の灯りが見えた時にはホッとした。本日は12時行動であった。

タム蓮華温泉 7:30 — 兵馬の平 8:00/8:15 — 滝見尾根上 8:55 —

9:10 — 濱戸川 9:15/9:45 — 雪倉滝上 10:30/10:50 — 雪倉山頂
15:20/16:10 — 濱戸川 17:25/17:40 — 蓮華温泉 19:30

3月23日(風雪) 蓮華温泉～平岩

朝から風が強い。昨日の天気とはまったく違う。予定では振子沢を登り返し天狗原から山ノ神コースだったが、平岩へエスケープする事になった。出発する頃には雪も降り出し完全に風雪に変わった。次に滑り込んでバス道路まで登り返す。バス道路に出ると目も開けられない程の風雪である。先行パーティに追いつく一時は40人位の大行列になった。樅平にて小休止して、地図に丁角小屋峠を確認した後に登り出す。ツボ足で登るパーティもいるが、我々はシール登行で登りきる。私もこの頃になるとキックターンがたいくびらくなつた見たいだ?。角小屋峠にシールを外してウド川に滑り込むが、ゴーケルが風雪の為に雪つてしまい何も見えない。ゴーケルを外して方向だけを定めて滑るが、平行感覚がゼロに等しい。自分で滑つてみるとどうかがわからぬが、やのくせ転ぶ時だけは一人前に転んでいた。無事、ウド川に滑り込むと風もたいくびら弱くなつた。長い斜滑降をやり、林間コースに入り、うろうろ休みたいと思つてたら、良い場所は先行パーティが休んでいたと思はは皆同じ。

今日の雪質は粉雪で最高に良く滑る。1300m近くでコロを出して大休止をする。林間コースを滑りスピードが出ると、コースを少し外して新雪滑降を楽しむ。道路に出て無事に大所まで滑り込んで大所からマイクロにて平岩駅に出てまずはメデタシ、メデタシと言いたい所だが今日はそれほどせんはなかった。

中央本線が雪害の為に不通になつてしまい、とりあえず松本に出る。松本にて名古屋から東海道新幹線で東京に帰る予定である。

松本を17:30分頃の特急で乗り、20:00頃に名古屋に着いて、すぐ新幹線に乗り込み、何とか今日中に東京に帰れると思つたが、まだ甘かった。今度は新幹線が大幅に遅れ、名古屋～東京まで何と6時間30分もかかつてしまい、東京駅に着いたのが、夜中の23:30分頃だった。国電は一晩中動いていたが、国電だけでは帰れない人は東京駅下車ラフカバーを出してステーションルームと作った。非常用に持つていったラフカバーをこんな所で使うとは……。

タイム 蓮華温泉 7:50 — 樅平 9:15/9:35 — 角小屋峠 10:10/10:30
— 1300m 11:00/11:45 — 大所 12:30/12:50 — 平岩駅 13:15

雪倉その1. ルート図

